

自治医科大学 小児科 とちぎ子ども医療センター

JICHI MEDICAL UNIVERSITY

Department of Pediatrics

JICHI CHILDREN'S MEDICAL CENTER TOCHIGI



小児科主任教授 小坂仁先生から



小児科医を目指す皆さんへ

私たちの診療は自治医科大学とちぎ子ども医療センター・総合母子周産期センターで行います。県の支援の元、自治医大病院に併設されました。栃木県全域と、茨城、群馬、埼玉にまたがるこの地域の小児医療の高度医療機関です。小児病院および大学講座としての双方のスタッフを擁し、すべての小児診療科で、子どもたちの医療的な問題点に対応しています。欧米では標準的な、大学併設型の”総合的な小児医療センター”であり、子どもたちに最良の医療の提供が可能となっています。当科の特徴を4つ上げます。

①最先端の治療・治療研究が可能であること：小児のECMO管理や不整脈のカテーテル治療、小児でのダブルバルーン内視鏡治療、腎臓・肝臓移植など成人科と連携した高度医療・臨床研究を行うことが可能です。全員ですべての新生児、内科系入院のカンファレンスを行っているため、その場で専門家へのコンサルテーションができます。

小児麻酔科医と小児循環の専門医からなるPICUを擁し、外科各科も、公募により選ばれています。また自治医大の基礎医学教室も、治療法開発をテーマとする教室が多く、小児科との連携が非常にやりやすい校風があります。このような環境下、遺伝子治療という自治医大を代表する治療研究開発の臨床拠点となっています。現在AMED等からの研究費により、恵まれた研究環境です。研究費や研究資材の面で、研究が制限されることはありません。

②子どもの総合診療医になれること；専門医としての深みを極めることも必要です。しかし患者や家族の視点に立ってみると、“全体を見てほしい”のです。例えば結節性硬化症という病気では、心臓腫瘍、てんかんや、発達障害、脳腫瘍、顔面血管線維腫、腎臓腫瘍などを伴います。多くの子どもにとっては、多くの場合皮膚病変が最重要であり、親の心配はてんかんや発達障害、そして遺伝からくるご自身の問題、子供が学校で友達と上手に付き合えるか、この子の将来をどのように考えていけばいいのかなど多岐に渡ります。それら全ては私達の問題です。どの様な専門性をもっていても総合診療外来を担当し、よき小児の総合診療医となることを目指します。そのことに誇りを持っています。

③自分たちのライフを大切にできること：私達自身の、家庭・地域のつながりの中での生活が大切です。それをベースとして子供たちを多面的に支援できることを目指します。医療以外にも、様々な科学領域、分野の友人と繋がりを持ち、子どもや若い家族の支援ネットワークを形成することを重視します。小児科医師としての人生は長いので、焦らず過度な競争心から離れ、キャリアパスの過程で、その時何が自分にできるかを考えましょう。全国津々浦々から、多様なバックグラウンドを持つ仲間が集まっています。子どもたちのこのころの問題を考える前に、まず私達が”楽しく”仕事をすることを重視しています。

④子どもたちの将来に貢献できること：小児科医は、生涯子どもたちと関わることができ、開業・勤務医・教育職・研究職どのような将来を選ぼうとも心から満足した生活を送ることが可能です。責任の重さは言うまでもありません。しかし一生勉強を続けられる環境に身を置き、学ぶ気持ちを失わないことによって、動揺しない心と冷静な判断力を養うことができます。

子どもが好きで、小児科医を志す人以外にも医療情報開発（僻地の小児医療支援など）、母子医療政策、日本の強みを生かした医療研究（トランスレーショナルリサーチ等）など多様な希望を持つ方の入局を歓迎いたします。教育的な指導以外、細かな指示は控えますので、自由に将来を描いてください。皆様の様々な希望・可能性に応えられる環境を準備します。子どもたちが活躍できる日本の将来のために力を合わせましょう。

❖ 教授紹介



河野由美教授
鳥取大学卒
専門：新生児



田島敏広教授
北海道大学卒
専門：代謝・内分泌



熊谷秀規教授
自治医大卒
専門：消化器・アレルギー

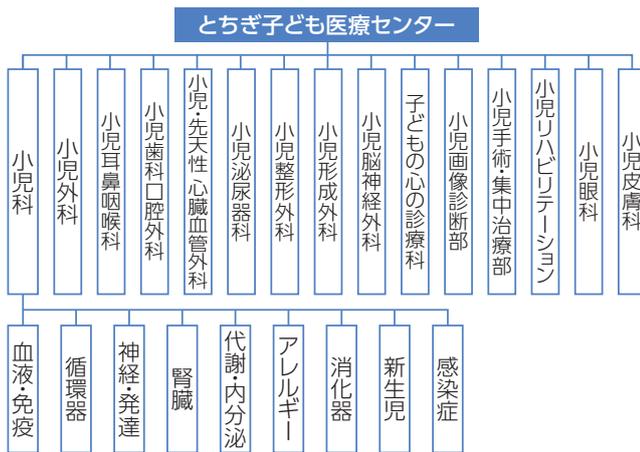


嶋田明教授
鳥取大学卒
専門：血液・腫瘍



村松一洋教授
群馬大学卒
専門：神経

❖ 当施設の特徴



小児科の中でも各分野の専門医がおり、質の高い医療を提供するように努めています。

また、センター内に小児医療における外科系を含む各科が集まっているため、小児科は家族・患者の窓口となり、最適な診療科への橋渡しをする役割もあります。

❖ 診療体制

各チーム3~5人体制で、10人前後の患者を診療するため多岐に渡る疾患を学べます。

毎日、朝夕にチーム内カンファレンスを行い、症例提示、ディスカッションを通してプレゼンテーションの技術や各疾患の診療に必要な知識を習得できます。

土日、祝日の病棟業務はチーム内での当番制で、週1日は休日を過ごすことができ、家族や友人との時間、学会やセミナーへの参加など各々が有意義に活用しています。



❖ 当直体制

当科の当直は3人体制(①シニアレジデント、②ジュニアレジデント、③指導医)で救急外来や入院患者の対応を行います。

当院は大学病院でありながらも一次救急から三次救急までの診療を行っており、walk in症例、救急搬送、他院からの転院搬送など様々な救急患者が受診するため、common diseaseから希少疾患まで診ることができます。また外科疾患のfirst touchをすることもできます。

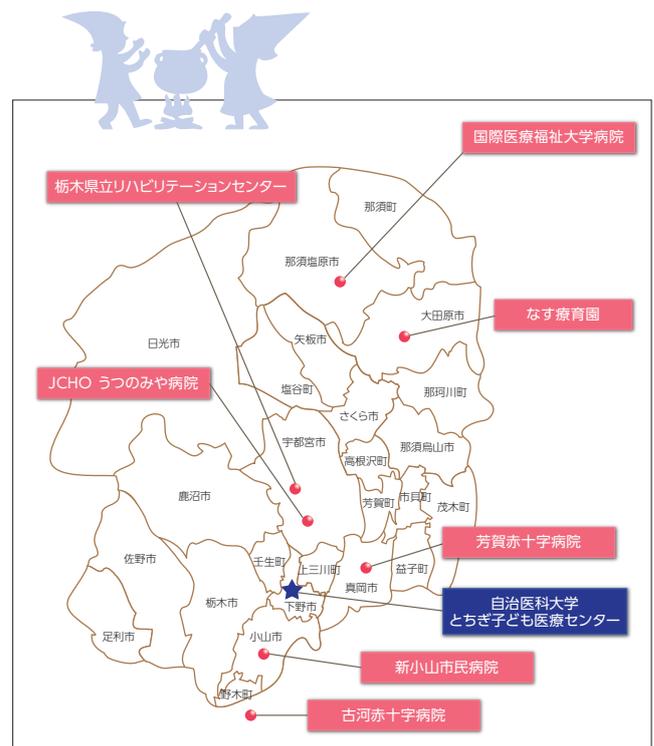
問診や診察、検査、治療などを先輩医師とともに経験し、勉強する事ができる絶好の環境です。

当直の頻度は一ヶ月間に3~5回くらいです。落ち着いている当直もあれば、忙しい当直のときもありますが、当直翌日は午前中の業務終了後に帰宅できます。



❖ 関連施設

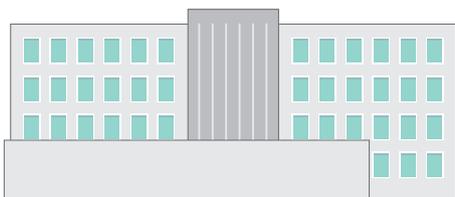
関連施設は栃木県内に6施設、茨城県内に1施設あります。すべての施設は、子ども医療センターと互いに密に協力し合い、総合的な小児科診療を提供します。一部の関連施設は、後期研修医の研修の場として重要な役割を果たします。



❖ 子ども医療センター 各フロア紹介

設備概要

子ども医療センターの建物は、地上4階、地下1階建てです。附属病院の本館・新館とは、地下通路及び3階の渡り廊下で接続しています。



子ども医療センター

4階 4A病棟：38床(小児科・慢性期)、分教室、クリエイティブ室
3階 3A病棟：36床(外科系)、PICU：8床、手術室
2階 2A病棟：38床(小児科・慢性期)、2B病棟：15床(心の診療科)
1階 外来、検査、小児画像診断部、ボランティア室

自治医科大学附属病院

本館3階 NICU：15床、GCU：19床



1階：外来、検査室

■主な小児科外来：総合診療、新生児、1か月健診、循環器、代謝・内分泌、神経、遺伝、腎臓、消化器、血液、免疫、アレルギー、感染、心理

小児画像診断部

入院患者の画像検査を小児放射線科医が読影し、週2回カンファレンス形式で担当医と情報交換しています。小児期特有の画像所見を臨床に即して分かりやすく説明してもらえるので、非常に勉強になります。



松木 充 教授

小児画像診断部では、患者の状態・年齢に応じて最短で最適な検査を提供し、診断するよう努めています。毎週、小児科や各外科系とカンファレンスを設け、ディスカッションし、各分野の知識を深め、かつ横断的視野を重視しています。われわれは依頼医とともに幅広い疾患の中から鑑別を絞る過程を大切にしているため、画像等で疑問があればお気軽に読影室にいらして下さい。



2A：急性期病棟

■主な疾患

- 全ての急性疾患
- 呼吸器疾患(気管支喘息、肺炎など)
- 腎疾患(ネフローゼ症候群、腎不全、腎移植など)
- 神経疾患(けいれん、脳炎、髄膜炎など)
- 消化器疾患(胃腸炎、炎症性腸疾患など)
- 感染症疾患(重症感染症など)



2B：心の診療科

- 適応障害、心身症、摂食障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、気分障害、統合失調症など、あらゆる小児期精神疾患を扱っています。

3A：外科病棟

- 主科：小児外科、小児心臓血管外科、小児脳神経外科、小児泌尿器科、小児耳鼻咽喉科、小児整形外科、小児形成外科、移植外科、小児口腔外科、小児眼科、小児皮膚科

PICU・小児手術・集中治療部

手術部門は、先天性心疾患の手術や一般的な外科手術に対応できるように設計され、小児・先天性心臓血管外科、小児外科、小児泌尿器科、小児整形外科の手術を行っています。小児集中治療部門は、術後管理をはじめ関連する診療科と連携して集中治療をしています。



PICU 部長 多賀直行 准教授

当PICUでは、先天性心疾患患者の周術期管理をはじめとして、合併症を持つ患児の外科手術後の管理や、痙攣重積発作などの内科的重症疾患患児の全身管理を担当し、危機的な状況に陥ってしまった子どもたちの最後の砦となるように関連各科と連携して、スタッフ一同日夜努力しています。重症の子どもたちの全身管理を勉強し身につけることは、日々の診療の強力な支えになると確信しています。**2019年より小児科後期研修医がPICUでの研修をはじめました。**1人でも多くの子どもたちを助けるため、また自分自身のスキルアップのために、小児集中治療の道に進まれる方々が増えてくれることを期待しております。

4A：慢性期病棟

■ 主な疾患

慢性疾患や在宅移行調整など
血液疾患、膠原病、固形腫瘍
循環器（先天性心疾患、不整脈など）
代謝・内分泌疾患（糖尿病など）
難治性てんかんなど



NICU（総合周産期母子医療センター内）

■ 主な疾患

精査・治療を要する新生児疾患、早産児
低出生体重児、新生児仮死、染色体異常症
先天性心疾患、小児外科疾患
口唇裂・口蓋裂、二分脊椎
など



❖ 自治医大小児科後期研修の魅力



2A病棟
谷本和也 先生

自治医科大学とちぎ子ども医療センターの2A病棟は、主に急性期疾患の患者さんが入院している病棟です。感染症、神経疾患、消化器疾患、腎疾患、内分泌疾患など幅広い疾患を診ています。RSウイルスを始めとする感染症や川崎病、急性脳症、糖尿病性ケトアシドーシスなど、また、基礎疾患があり気管切開術や在宅呼吸器、胃瘻造設など新たな医療的ケアが必要になるような症例も、軽症例から重症例まで幅広く経験することができます。

わたしは他院での初期研修であり、小児科はたったの1か月だけしかローテートできず高齢者ばかりみてきた状態で当院での後期研修が始まりました。小児科のことをほとんど知らない状態で始まった後期研修だったため、当初は非常に不安でしたがそんな自分にも親身になって話をきいて指導して下さる先生方に囲まれ充実した後期研修を送ることができています。

初めのころは手取り足取りでしたが、主治医もつとめるようになり子ども本人だけでなく、保護者との信頼関係も重要で、日々ご家族と関わっていく中で小児科医としての責任感が日々培われていくのを感じています。またプレゼンをする機会が非常に多いのも特徴だと思います。正直にプレゼンテーションには苦手意識がありましたが何度も発表、フィードバックをうける中でサマライズして人に伝える能力は全員あがると思います。重症な症例を担当するとしんどくなり心が折れそうなきときもありますが、そんなときでも相談できる環境が揃っているのが自治医科大学だと思います。小児科の一番のやりがいは退院していく子どもたちの笑顔を見れるところです。日々、目まぐるしいですがまた頑張ろうと思えることでしょうか。これを読んでいるみなさんも自治医科大学と一緒に頑張りましょう。



とちぎ子ども医療センターの4A病棟では、血液班、循環器班、神経班といった専門班に分かれて、主に慢性期の患者さんの診療を行っています。

血液班は白血病や悪性リンパ腫などの血液腫瘍疾患、神経芽腫や脳腫瘍、骨肉腫などの固形腫瘍に対する化学療法や造血幹細胞移植を行っているほか、全身性エリテマトーデスや若年性関節リウマチなどの膠原病疾患の診療も担当しています。循環器班では、主に先天性心疾患の患者さんの診療にあたり、心臓カテーテル検査やカテーテルによる治療、心不全管理を行っています。当院は小児心臓血管外科が小児の心臓手術を行っており、心臓血管外科医とも協力した診療体制が整っています。循環器の患者さんはPICUに入室することも多く、小児の集中治療を勉強することもできます。また、神経班では、難治性てんかんや先天性代謝疾患、神経筋疾患の診療にあたっています。特にAADC欠損症に対する遺伝子治療も行っており、最新の治療にチームの一員として携わることができます。

小児の全身疾患では複数の専門領域にわたる管理を要することが多いのですが、同じ病棟内に各分野の専門家がいるため、とても相談しやすく、自分の知識を深める意味でも恵まれた環境だと思います。また、後期研修中から、いわゆる「全身を診る」ような診療と、専門性の高い診療の両方に携わることができ、小児科らしいやりがいを感じることができます。もし少しでも興味を持たれたら、ぜひ当センターでの研修をご検討ください。医局員一同お待ちしております！



4A病棟
宮崎悠夏 先生

新生児集中治療部は、総合周産期母子医療センターの小児科部門として、栃木県の新生児医療の一角を担っており、入院する新生児の疾患は早産児、低出生体重児、先天性疾患、小児外科や脳外科疾患など多岐にわたり、様々な疾患を満遍なく経験できることが魅力です。研修では、はじめは指導医とペアで診療にあたります。新生児蘇生法、採血や血管確保、気管挿管、超音波検査など、初期研修では経験しなかった手技や新しく学ぶ知識がたくさんありますが、丁寧な指導を受けられるため安心して経験を積むことができます。しばらく指導医とペアでの診療を経験した後に、主治医としての研修が始まります。他科と連携しながら治療方針を決定したり、ご家族との関係を構築して退院後の環境を調整したりと、難しいことも多いですが、医師として重要な経験や責任感を学ぶことができます。もちろん困ったときにはいつでも上級医が相談にのってくれるので、安心して診療することができます。小児科専門医になるために必要な知識や技術、考え方を



NICU
五味遥 先生



無理なく身につけることができる環境が整っています。緊張感のある場面もありますが、上級医やスタッフと協力し乗り越えることで自分の成長を感じることができています。自分が出生時から関わっている赤ちゃんが様々な困難をのりこえ、元気に大きくなって退院する瞬間に感じる充実感と喜びは素晴らしく、日々のモチベーションになっています。ぜひ、その喜びを一緒に感じましょう。

PICU 福田真也 先生

とちぎ子ども医療センターのPICU(小児集中治療室)は、栃木県内で唯一のPICUであり、県内で唯一の複雑な先天性心疾患の手術を行う施設で、小児のECMO管理なども行っています。また先天性心疾患の周術管理だけでなく、心不全、呼吸不全、腎不全、急性脳症、てんかん重積状態、重症感染症、重症熱傷、重症外傷など、幅広い疾患の子どもの診療を行っています。そして、気管挿管や人工呼吸器管理、鎮痛鎮静管理、中心静脈路確保、

持続人工濾過透析(CHDF)などについて勉強することができます。小児の高度医療における幅広い知識と技術を習得

できます。
とちぎ子ども医療センターのPICUでは、当直などの診療体制が整っており、上級医との連携を通じて、安心できる環境で研修することができます。また、スタッフは皆、親切で、やさしく診療のサポートをしてくれます。

とちぎ子ども医療センターのPICUで研修することで、小児科医として成長することができる非常に有意義な経験となると思います。ぜひとも、とちぎ子ども医療センターのPICUと一緒に働きましょう。

写真は左から佐藤智幸先生、福田真也先生、古井貞浩先生



❖ 新スタッフ紹介



阿久津 萌 先生 東京都出身

今年の4月に入局した阿久津と申します。初期研修から自治医大で勤務をはじめ栃木県は3年目です。今年度入局の頼もしい同期とは、みんなで和気あいあいと、切磋琢磨しながら後期研修をスタートしています。指導熱心な先生方のもとで、専門的な症例からcommonな症例まで幅広く経験を積むことができるのが自治小児科の魅力と感じています。ぜひ見学にきて実際に雰囲気を感じてみてください!!



上山 智樹 先生 栃木県出身

S1の上山智樹です。栃木県出身で他大学で初期研修の後に栃木に戻ってきました。小児科医としての生活は慣れないことも多く戸惑うこともあります。今年は同期も多く、支えられながら切磋琢磨し充実した生活を送っています。当院での研修は多彩な症例と充実した上級医のサポートが魅力的で、手厚い指導の元日々の診療を通じて成長を実感しています。これからも一人一人の患者さんとの出会いを大切に日々邁進していきたいと思っております。



亀岡 緋菜 先生 福島県出身

4月から小児科に入局しました亀岡緋菜と申します。私は初期研修医から自治医科大学病院で働き、そのまま小児科へ入局しました。初期研修医のときから小児科のアットホームな雰囲気は印象的で、教育熱心な先生方のもとで様々な症例をみて経験を積めると思い、入局することを決めました。実際に働き始めてからもその印象は変わらず、毎日充実した生活を送っています。まだまだ未熟なものでありますので、日々の診療に励んでいきたいと思っております。まずは見学にいらしてみてください。お待ちしております。



神田 藍 先生 千葉県出身

4月から勤務しています、神田です。自治で初期研修を行い、よくばり気質なので全身を診る小児科にしました。基礎から専門的なことまで自分のペースで取り組みつつ、患者さんたちや熱心な先生方からエネルギーをもらっている毎日です。同期もたくさん入り恵まれた環境で日々勉強しています。スタート地点に立ったばかりで至らぬ点も多いですが、冷静と情熱の間で頑張ります。魅力的なことも多いので興味のある方は是非一度見学に来てみてください。



霜田 かれん 先生 群馬県出身

今年度小児科に入局した霜田と申します。学生時代から小児科医となることを考え始め、子ども医療センターのある当院での初期研修を選びました。必修と選択で3か月ローテートし、先生方やスタッフの方々の子供たち、家族に対する真摯で熱心な姿勢を見てそのまま後期研修に進むことを決めました。4月から急性期病棟で勤務していますが、温かい雰囲気の中で各分野に精通した先生方からのご指導を頂きつつ、賑やかな同期とともに楽しく充実した日々を過ごしています。少しでも興味のある方はぜひ一度、見学にいらしてください!お待ちしております。



檜波田 真実 先生 神奈川県出身

2023年4月に入局した、檜波田真実です。東京女子医大を卒業して、自治医大で初期研修をしました。研修医としてローテートした時に、症例が幅広いこと、科の雰囲気の良さ、教育体制が整っていることが分かり、入局を決めました。いろいろな疾患の患者さんを沢山の専門班の先生と相談しながら丁寧に診ることが出来て、毎日刺激的で楽しいです。教育体制の整った雰囲気の良い病院ですので、小児科に興味がある方は是非見学にいらして下さい。





山下 優理 先生 栃木県出身

2023年度に入局した山下 優理です。帝京大学卒業後、自分の出身県である栃木に初期研修から戻ってきました。小さいころからの夢だった小児科医になれて本当に嬉しいです。自治医大の小児科の先生方は優しく、穏やかで、とても指導熱心です。シニアレジデントに対して、ひとり立ちできるように手厚い指導をさせていただきます。大学病院の充実した設備と、熱い指導が受けられる素晴らしい環境でしっかり勉強して、はやく一人前になれるように頑張ります。



横関 紗帆 先生 京都府出身

関西出身で、大学から東京へ、研修から縁もゆかりもなかった栃木で、豊かな自然の中、休日には趣味の乗馬に励んでいます。大学の部活の試合で度々訪れていた自治医大の雰囲気と独立した子ども医療センターに魅力を感じ研修したいと思いました。実際に働いてみて、第一印象のままのアットホームな職場と附属病院にも勿論の事、小児科の各専門班へ気軽に相談できる環境が整っており、とても勉強になる日々です。是非一度気軽に雰囲気を感じにいらしてみてください！



吉野 光朗 先生 茨城県出身

4月から入局しました、S1の吉野光朗と申します。地元は茨城県で出身大学は弘前大学です。大学での部活は自転車部に所属していました。レースやツーリングなどやりましたが、個人的にはツーリングの方が好きです。栃木に来てからは、天気の良い日は鬼怒川沿いをサイクリングすることもあって、とても気持ちが良いです。まだ栃木県の地理に慣れていない点は多くありますが、サイクリングスポットを探してみたいと思っています。



岩崎 智裕 先生 大分県出身

4月から勤務しております、岩崎と申します。自治医科大学の卒業生で、出身県の大分県で勤務してきました。期間のうち半分は小児科医、半分は総合診療医として診療所でも働きました。私がサブスペシャリティとして志望している神経に関しても、また小児の総合診療についても幅広く研修できる環境だと思い、自治医大に戻ってきました。卒業生が地元に戻るため、様々な出身大学の先生がいますが、分け隔てなく指導していただき研修できる環境です。ぜひ見学にいらしてください。



堀口 明由美 先生 埼玉県出身

卒後8年目で入局した堀口明由美です。自治医大は医局の雰囲気がよく毎日楽しく働いています。私は入局後出産したのですが、時短勤務で育児しつつ勉強させてもらっています。育児中もキャリアを継続しつつ無理なく働ける自治医大はとてもおすすめです！一緒に働きましょう！



西村 力 先生 岐阜県出身

今年の4月より自治医科大学NICUに赴任しました。浜松医科大学を卒業後、東京大学小児科に入局し、東大病院、長野県立こども病院、都立墨東病院、埼玉県立小児医療センターで新生児医療に携わってきました。小さく産まれた赤ちゃんの生命力や成長に驚かされたり、癒やされる日々です。N卒業生の将来の健康についても興味が尽きません。これからの新生児医師の育成にも力を入れていきますので、まずは見学に来てください。



永井 康平 先生 埼玉県出身

2022年10月から自治医大小児科に入局しました。出身は埼玉県、前任地の、自治医科大学附属さいたま医療センターで研修をしており、医師12年目になります。自治医大小児科は、栃木県の小児医療の最後の砦として存在しており、各分野の専門家がも多く、またスタッフ同士の垣根が非常に低く、相談しやすく、非常に多くのことを学べます。ぜひ、お気軽に見学などしていただけたいと思います！

❖ 小児科医と育児と私

結婚・出産・子育てなどのライフイベントに対応した支援があります。

産休・育休はもちろん、育児短時間勤務制度、部分短時間勤務などが充実しており、働きやすい環境作りに努めています。

川田 雅子 先生 (神経)



私は産休・育休を1年間いただき、時短勤務で復帰して約3年になります。ライフワークバランスの考え方やサポート体制などは皆違いますが、それぞれの考えや状況に柔軟に対応してくれるこの医局に大変感謝しています。また、快く助けてくれる多くの仲間のおかげで安心して育児ができて幸せです。この職場の温かさを感じにぜひ一度いらしてください！

小林 瑞 先生 (神経)



私の場合は常勤時に子どもの病気のコントロールが悪く退職を考えたとき、すぐに時短勤務にさせていただきました。それから数年、気付けば息子も元気な日のほうが多くなり、私も仕事を続けています。あきらめなくてよかったです。家族も仕事もどちらも大切にしながら働ける職場です。ぜひ一度見学にいらしてください。

横溝 亜希子 先生 (循環器)



短時間勤務を利用しながら、2人の子育てをしています。「時短でもスキルアップを」と指導していただける小児科の環境は、非常に恵まれています。循環器班にいますが、周囲のサポート、理解があり、家庭に重きをおいた働き方をさせていただいています。いろいろな働き方をしているママさんがいて、とても参考になると思います。

新島 瞳 先生 (血液)



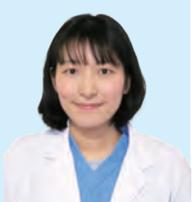
育休後、短時間勤務で復帰し、その後フルタイムへとその時々の子育ての状況で働き方を変えさせて頂きました。日々の業務だけでなく子供の体調不良や園行事など、周りの先生方に支えてもらいながらなんとかこなしています。育児、仕事のバランスは難しいですが、子育てしながらキャリアを継続できるありがたい環境だと思います。

黒川 愛恵 先生 (神経)



私は週20時間の時短勤務を選択しています。先輩ママドクターがたくさんいて、働き方から保育園・幼稚園のこと、子育てのことetc.様々なことを相談でき心強いです。そして「助けが必要な時は声をかけて」と言ってくれる同僚に囲まれ、安心して働けており感謝です。小児科医としても、子育ての経験がいつか誰かの役に立てればいいなと思います。

岡田 優子 先生 (消化器)



産休中に専門医を取得し、現時短勤務で勤務させていただいています。当院は敷地に近い場所に保育園があり、勤務形態も選択できるため、とても育児環境として恵まれていると思います。色々な先生方に助けていただきながらなんとか勤務を続けております。経験できる症例も多く、毎日学びの連続です。一緒に頑張りましょう。

堀越 亜希子 先生 (総診)



入局1年目に出産し、現在小児科医として3年目になります。周りの先生方に助けて頂きながら、専門医取得に向けて準備を進めています。本年度は市中病院で、時短の勤務体系で勉強させて頂いております。自治医大小児科には先輩ママ、パパがたくさんいるので、公私とも相談に乗って下さり、本当に助かっています。

浅井 眞穂 先生 (内分泌)



2歳の息子の育児をしながら短時間勤務をしています。小児科は子育て中の先生方が多く、育児と仕事・キャリアアップをどう両立するかを相談しやすい環境にあり、ロールモデルとなる先生方がたくさんいらっしゃいます。自我が芽生えイヤイヤ期を迎えた息子と毎日格闘する日々ですが、小児科医である夫と協力しながら育児と仕事を少しずつ両立できるようになってきました。小児科医としても母親としても未熟ではありますが、先生方を見習いながら、子どもと一緒に少しずつ成長していければと思っています。

福田 真也 先生 (アレルギー)



育児と仕事の両立は挑戦的ですが、私にとっては喜びと成長の機会でもあります。日々の多忙な業務に全力投球しつつも、帰宅後や休日は子どもとの時間を大切にしています。仕事を調整してもらい幼稚園の行事にも参加していますが、そこでの我が子の成長を見るととても感動し仕事へのモチベーションへも繋がっています。親としての愛情と医師としての専門知識を結びつけ、より良い未来を築くことを目指しています。

甲州 希理 先生 (神経)



妊娠中に専門医を取得、育休中に大学院を受験し、昨年春に大学院生として復帰しました。初年度は臨床を経験し、今年から大学院2年目として本格的に研究が始まり勉強になることばかりです。先生方や家族、地域の支えのおかげでキャリアを諦めず、過ごすことができている。家庭も仕事も大切にできる小児科の環境に感謝しています。

新米パパの育児

森田 裕介 先生 (循環器)

昨年8月に我が家に息子が誕生し、その日から新米パパとして全力で役割を果たしています。妻の絶えぬ努力と愛情、そしてチームの先生方のサポートに深く感謝しています。息子の成長は私たちを驚かせ、喜ばせてくれます。小児循環器医としての新たなスタートを切り、多忙な日々を送っていますが、家庭と仕事の両立を目指し、日々奮闘しています。



❖ 若手 Dr. のとある1日

峯村 はる香 先生

私は当院で初期研修を行い小児科に入局しました。現在は子ども医療センターの急性期病棟で勤務しており、専門医取得に向けて日々経験を積んでいます。子ども医療センターは専門班が充実しており症例に困ることはありません。日によって忙しさは異なりますが残業三昧ということはなく無理なく仕事をする事ができています。休日は当直や当番で出勤の日もありますが、しっかりお休みも取れるため趣味にも時間を使う事ができています。



- 6時30分 ● 起床。録画しておいた歌番組を見ながら準備。
- 8時 ● 出勤。
- 8時15分 ● 週3回、小児科ないの新患カンファレンスがあります。
- 9時 ● 病棟業務。
- 11時 ● チームカンファレンス。和気藹々とした雰囲気です。
- 12時 ● 昼食。
- 13時～17時 ● 病棟業務。1か月健診などの外来。
月、木は放射線カンファレンスがあります。
- 18時 ● 帰宅。
- 19時～20時 ● 近くに住んでいる弟や妹と夕食。夕食した時はスタバに行くのが定番です。
たまに銭湯にも行きます。思川温泉は近いのでおすすめです。
- 21時～ ● YouTubeで推しのチャンネルを見たり、Netflixで韓国ドラマを見たり
録画していたドラマやバラエティを見ます。
友人と電話したりすることも。
翌日お休みの時は8時間電話したこともありました！
みんな遠くに住んでおり
なかなか会えないので大事な時間です。
- 0時頃 ● 就寝



❖ 専攻医勉強会・当直前クルズス

専攻医プログラムの一環として、年に3回専攻医勉強会を開催しています。第1回目は、河野教授から新生児疾患についての講義がありました。専攻医のみならず、10～20年選手の先生方も聴き入っている姿が印象的でした。まさに“明日からの診療に活かせる”内容で、専攻医の皆さんにとって大変学びのある機会となりました。

主に後期研修1年目の先生を対象に当直が始まる前にクルズスを毎年開催しています。救急対応について各分野の先生から講義を受け、当直にスムーズに入れるように準備をしっかり行っています。



❖ 関連研修病院

芳賀赤十字病院



専攻医は何を研修に求めるべきでしょうか。学生時代、初期研修医時代に描いていた小児医像にあこがれて様々な小児科研修プログラムに参加するわけですが、その時点で自分の将来像が明確になっている専攻医は少ないはずで、では、どうしたらいいのでしょうか。専攻医の間に如何に多くの経験ができて、自分の適切な将来が見つけられるということですね。自治医科大学小児科とちぎ子ども医療センターは、大学病院併設の子ども医療センターであり、他の施設群では経験できない多くの高度医療の症例があります。そこに当院の一般小児科の経験を加えればその経験値は他の施設群での経験をはるかに凌駕するものです。当院は、栃木県東地区にあり新生児（未熟児をふくむ）から思春期に至るすべて

の年齢層の、すべての疾患を診療対象にしています。最近話題のこころの不調、養育支援や福祉サービスにも以前から積極的に取り組んでおり、教育や行政とも積極的に関わっています。日本小児科学会専門医はもちろん、日本アレルギー学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本小児神経学会専門医取得研修も可能です。

新型コロナウイルス感染の影響がなくなった今、非常に忙しい日々が続いていますが、自治医科大学小児科専攻医プログラムに参加しぜひ当院においでください。

新小山市民病院



新小山市民病院は、小山市の南に位置しており、栃木県南及びその周辺地域の小児二次医療を担っている病院です。紹介・逆紹介型の基本方針で開業医の先生方とも協力しながら小児科医7名で診療を行っております。診療内容としては、外来診療では、低身長や体重増加不良、不登校や起立性調節障害、感染症等、様々な患者さんが来院されます。病棟診療については主治医制ですが、朝、夕とカンファレンスがあり、治療方針などについてディスカッションをしています。入院患者の内訳は、呼吸器感染症や気管支喘息発作、尿路感染症、ネフローゼ症候群、川崎病やけいれん性疾患の他、日帰りでの食物アレルギー負荷試験や検査入院などです。その他行政から依頼を受けた乳幼児健康診査や予防接種も行っております。当院での研修の特徴として、指導医や専門医の助言を受けながら、1人の児童生徒を初診から入院中、退院後まで一貫して診療することができる点や、地域の乳幼児健康診査への参画を通して地域医療について学ぶ機会が得られる点にあります。このような特徴を生かして自治医科大学小児科専攻医プログラムでは、研修関連施設として専攻医研修に参画しています。ぜひ当院での研修にいらしてください。

2022年度から小児科専攻医の研修病院の一つに加わりました。栃木県の県庁所在地でもある宇都宮地区の二次救急病院群輪番制加入病院であり、また救急指定病院としても同地区医療の一端を担っています。小児科は常勤医は2名ですが、外来診療、入院診療、救急対応などを行っています。専攻医としては、入院診療、一般外来をはじめ、救急対応、予防接種外来や乳児健診なども担当しています。Common diseaseはもちろん、食物アレルギー、肥満、低身長、起立性調節障害などといった、子どもたちの日常に大きく関わるような疾患を診ることも多く、地域医療の重要性を肌で感じています。大学病院とは違った診療を通してスキルアップできる環境も整っています。病院スタッフの方々も話しやすく、楽しく働いて、そして多くのことを学んでいます。ぜひ当院で研修してみてください！

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）うつのみや病院

当院は2022年度から小児科専攻医の研修病院の一つに加わりました。栃木県の県庁所在地でもある宇都宮地区の二次救急病院群輪番制加入病院であり、また救急指定病院としても同地区医療の一端を担っています。小児科は常勤医は2名ですが、外来診療、入院診療、救急対応などを行っています。専攻医としては、入院診療、一般外来をはじめ、救急対応、予防接種外来や乳児健診なども担当しています。Common diseaseはもちろん、食物アレルギー、肥満、低身長、起立性調節障害などといった、子どもたちの日常に大きく関わるような疾患を診ることも多く、地域医療の重要性を肌で感じています。大学病院とは違った診療を通してスキルアップできる環境も整っています。病院スタッフの方々も話しやすく、楽しく働いて、そして多くのことを学んでいます。ぜひ当院で研修してみてください！



国際医療福祉大学病院



国際医療福祉大学病院は、栃木県北部の那須塩原市にある総合病院です。那須塩原市は自然豊かで温泉も豊富、一年を通して観光地として賑わっています。私自身も県北の出身で、文字通り故郷の様な感覚で日々過ごしています。

当院小児科の特徴をいくつかあげてみます。

1.常勤の小児科医は6名。一般病棟（私と指導医の2人体制）とNICU病棟（2名のNICU専任医師が在胎30週以上を管理）があるが、お互いの風通しが良い。毎朝全員でカンファレンス・情報共有をしており、全員一体で診療にあたっている。

2.栃木県北部の二次救急施設の一つ。週3日は輪番日として県北の全小児患者を受け入れている。時に救急車が列を作ったり、寝られないことも。

3.地理的に院内での治療完結を求められることが多い。本年より小児外科の先生が新たに常勤として赴任され、外科系疾患にも対応できるようになった。どこまで当院で見るべきか、重症患者の見極めも重要。

4.リハビリ部門が充実しており、神経発達症のお子さん、早産低出生体重のお子さんの発達促進の支援を行いやすい。

5.大学病院の特性上、国際医療福祉大学医学部学生が常時実習に参加。また、初期臨床研修医も常に1-2名ローテート。国際医療福祉大学医学部の1期生も現場に出てきた。臨床だけでなく、教育も重要な使命だ（シミュレーションセンターが完備）。

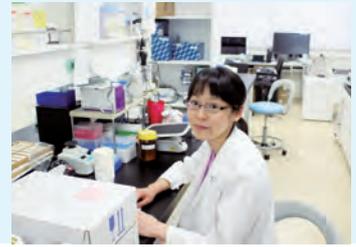
私も専攻医2年目として、外来に携わるなど自律的に診療にあたる要素が1年目より強く感じられます。当院での研修、日々成長を実感できます。

❖ 充実した大学院生活

渡邊 知佳先生

臨床ではしばしば難治性疾患の患児を診ますが、一方で遺伝子治療のような新規治療法の開発により、劇的に症状改善がみられた患児も経験しました。このような臨床経験を通して、基礎研究の重要性を再認識し、大学院に進学しました。

自治医科大学は、臨床で得られた様々な疑問を基礎研究で解明でき、先生方も大変熱心にご指導くださり、とても恵まれた環境にあります。皆さん、ぜひ、いらしてください。



伊東 岳峰先生



私は医師20年目のアラフィフです。医師になってずっと、大学院には全く興味がありませんでしたが、これまでに関わっている「超音波顕微鏡」を、自分の専門分野である小児腎臓領域で臨床応用したいという意欲が強くなり、研究に専念する目的で進学を決断しました。まさか、この年で二人の娘と同じ学生になるとは思ってもいませんでしたが、日々新たな学びがあり、悩みながらも充実した生活を送っています。自治医科大学小児科には、臨床だけではなく研究や教育の実績も十分にあり、どの年代にもチャンスを与えてくれる環境があります。ぜひ一度見学に来て下さいね。

小林 瑞先生

臨床で生じる疑問への対応力を磨くために自分も何か身につけたいと思い大学院に進学しました。子育て中でもニーズに合わせて柔軟に指導いただいています。環境が非常に良いことがとても魅力的です。さらに臨床も充実しているからこそ研究との橋渡しが可能になると感じています。特に気になる生活面でも支援が充実していますし、特に小児科では諸先輩方が気にかけてくださるので困難は少ないと思います。ぜひ一度見学にいらしてください。



倉根 超先生



臨床の現場を経験すればするほど、解明されていない事象に疑問を抱くことが増え、テーマを決めて解明に没頭したいと思うようになりました。私は医師7年目で大学院博士課程に進学しました。現在は神経発達症に関連した研究をしています。頭の中の見えない病態や現象をいかに可視化し客観的にみていくかを課題に研究を行っています。進学後の生活に不安がなかった訳ではありませんが、多岐にわたる先生方のご指導のもと、充実した日々を送っています。大学院も気になる方がいらっしゃいましたら、気兼ねなく声をかけてください。お待ちしております。

甲州 希理先生

神経難病の患者さんを担当する中で、臨床の経験だけではわからない疾患概念や病態理解、治療方針の決定方法があると感じました。研究経験がなく、不安もありましたが、妊娠・出産も重なり、子育て中のキャリアアップも考えて入学を決めました。現在は経験豊富な指導医の先生方やスタッフのサポートを受けながら、研究を行っています。オンライン授業が多く、子育て世代にはありがたい環境です。臨床から離れるのは不安もありますが、新たな視点を得られる貴重な機会だと感じます。気になる方はぜひお声かけください。



❖ 小児科研修プログラム

J1・J2	S1	S2	S3	病院助教
病棟診療 救急外来	病棟診療 NICU 救急外来	関連研修病院 での研修	病棟診療 NICU PICU 救急外来	専門医試験 専門分野の選択 大学院入学

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
S1	循環器			2A			NICU			血液		
S2	2A			PICU		血液	2A		NICU			
S3	外病院											

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
S1	NICU			血液			循環器			2A		
S2	NICU				4A 神経				2A			
S3	外病院											

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
S1	循環器			NICU			血液		2A			
S2	外病院											
S3	循環器						PICU		NICU			

実際の後期研修医のローテーション例。

後期研修は基本的には2年間大学内、1年間（S2またはS3）外病院での研修を行います。

大学内では各専門班を2-3ヶ月ごとにローテーションし、満遍なく症例を集めることができます。

S1は各病棟にほぼ同じ期間ずつ勤務しますが、大学勤務2年目については、希望の専門班が決まっていれば長く回ることもできます。

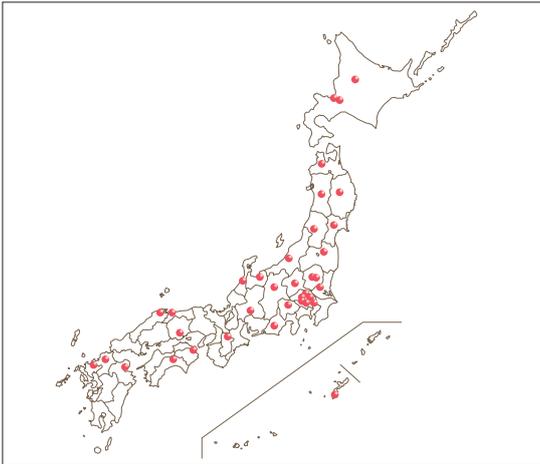
❖ 外勤先一覧

現在の外勤で行ける病院の一覧です。平日の当直、休日の日当直以外にも平日の1か月健診、土曜の午前中の一般外来など幅広く外勤に行っています。

- 外来 日光市民病院、協和中央病院、黒須病院、栃木県立リハビリテーションセンター
- (日) 当直 なす療育園、国際医療福祉大学病院、新小山市市民病院、古河赤十字病院
JCHO うつのみや病院、芳賀赤十字病院
- 1か月健診 おおひらレディースクリニック、さくら産院
- 献血車



❖ 小児科スタッフの出身大学



自治医科大学は、卒業生が大学に残りません。このため、講座スタッフ・レジデントは全国の各大学からメンバーが集まっていることも特徴の一つです。

出身大学：秋田大学、旭川医科大学、岩手医科大学、大分大学、岡山大学、金沢大学、北里大学、岐阜大学、杏林大学、群馬大学、高知大学、埼玉医科大学、佐賀大学、札幌医科大学、産業医科大学、自治医科大学、島根大学、順天堂大学、昭和大学、信州大学、筑波大学、帝京大学、東海大学、東京医科大学、東京女子医科大学、東邦大学、東北大学、徳島大学、獨協医科大学、鳥取大学、富山大学、奈良県立医科大学、新潟大学、日本大学、浜松医科大学、弘前大学、福井大学、福島県立医科大学、北海道大学、山形大学、山梨大学、琉球大学

❖ Translational Research (Bed side to Bench)



小児科学会栃木県地方会（年3回）を始め、様々な学会・研究会に初期研修1年目から発表する機会があります。上級医、各専門班の指導医が丁寧に指導し、発表後は論文指導もします。

また、日々の診療を通して得た病態の疑問を、隣接する大学の研究施設で解き明かすことができ、小児科の physician scientist を目指す人にとっては、とても恵まれた環境です。

◇ 日本の遺伝子治療の中核！ ◇ AADC 欠損症の遺伝子治療が全例成功 ◇ そして、小児難治性疾患の新たな治療法を開発中！

ほとんどが生涯寝たきりとなる小児神経難病の一つ「芳香族Lアミノ酸脱炭酸酵素（以下 AADC）欠損症」。遺伝子異常が原因のこの病気に対し、当教室では 2015 年から遺伝子治療を臨床研究として、日本・海外から治療を希望された方 8 名に行い、全例で運動能力が改善しました。AADC は重要な神経伝達物質のドーパミンやカテコラミン、セロトニンの合成に必須の酵素で、AADC 欠損症はこれらの神経伝達物質が不足し発達が障害されます。根本治療は、正常な AADC 遺伝子を組み込んだベクターを脳神経外科手術で被殻に注入する遺伝子治療です。

結果は良好で、寝たきりだった方が歩行器や車椅子歩行が可能になる、胃瘻で栄養を摂取していた方が口から食べられるようになる、苦しいジストニア発作が消失する、など患者さんとご家族の QOL が改善し、笑顔で生活できるようになっています。治療から 5 年以上経っても、治療効果は持続しており、生涯効果が期待できます。

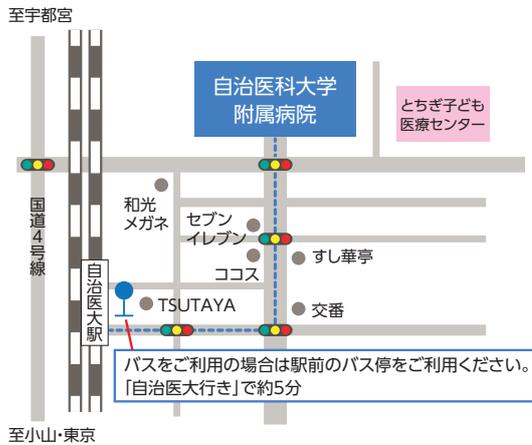
この遺伝子治療を今後も患者さんに届けるため、治験を行い薬として承認されるよう準備を進めています。

当教室では、他の難治性小児神経疾患の治療法も開発中です。難治性てんかんなどで発症する GLUT1 欠損症、Nieman Pick 病 C 型、OTC 欠損症などいくつかの病気の遺伝子治療を開発し、臨床応用に向け準備を進めており、ここは日本の遺伝子治療の中核を担っています。



遺伝子治療を受けた患者家族を追ったドキュメンタリーがテレビ放送されました。また、同時に映画化された「奇跡の子どもたち」は、科学技術映画祭にて内閣総理大臣賞を受賞しました。

❖ 子ども医療センターへのアクセス



JR 宇都宮線「自治医大駅」下車、徒歩
15分または接続バスで5分
(東北新幹線を利用の場合は「東京方面か
らは小山駅」、「東北方面からは宇都宮駅」で
下車し、宇都宮線の普通電車に乗り換え)



■自治医科大学 小児科学講座

■〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

■TEL: 0285-58-7366、FAX: 0285-44-6123

■<https://www.jichi.ac.jp/usr/pedi/wp/index.html> →

■お問い合わせ：jmsped@jichi.ac.jp

■見学をご希望の際には、上記連絡先、もしくは卒後臨床研修センターにお問い合わせください。

